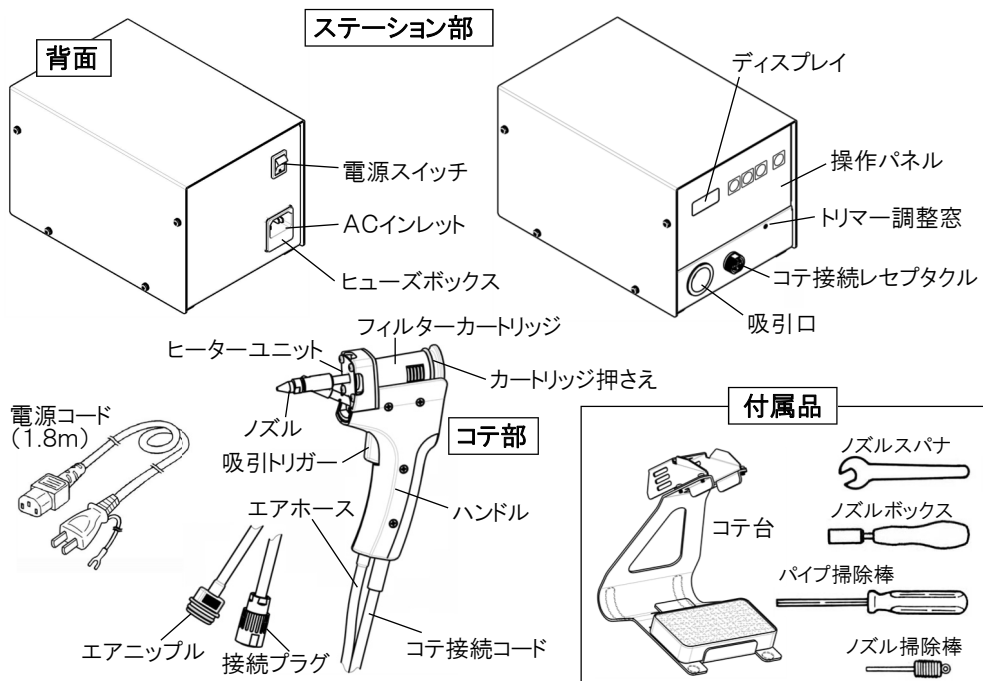


# HS-802 ハンダ吸取機

このたびはホーザン HS-802 ハンダ吸取機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。また、お読みになったあとも大切に保管してください。

## 各部の名称と入組細



## 仕様

定格電圧・周波数	AC100V 50/60Hz	外形寸法	135(W) × 129(H) × 200(D)mm
消費電力	170W	重量	ステーション 2.3kg コテ 170g
ヒーター	セラミックヒーター	コテ接続コード長	1.5m
設定温度	360~480°C	エアホース長	1.8m
ポンプ方式	ダイヤフラム式	電源コード長	1.8m
最大真空到達度	-80kPa		
標準ノズル	HS-812		

## 注意文の警告マークについて

この取扱説明書ではご使用上の注意事項を次のように区別しています。

**⚠警告** …重傷をとまなう重大事故の発生を想定してのご注意

**⚠注意** …傷害や物的損害を想定してのご注意

なお、**⚠注意**として記載されていても、あるいは特に記述がなくても、状況によっては重大な結果をまねく恐れがあります。正しく安全にご使用ください。

## ご使用上の注意

### ⚠警告

1. 電源電圧は、交流100Vをご使用ください(50Hz、60Hz共用)。それ以外の電圧を加えると、故障や火災の原因になります。
2. 電源を入れたまま長時間放置しないでください。ヒーターの寿命を短くするばかりか思わぬ事故につながる恐れがあります。使用後は必ず電源を切ってください。
3. ノズルからヒーターユニットおよびヒーターユニット受け部の黒いプラスチック部分までは、高温になりますのでご注意ください(ノズル部で480°C)。特に、発熱部を手・顔など人体の各部、およびアルコール・塗料など揮発性の高い化学薬品、また、紙・木・プラスチックなど可燃物に近づけないでください。
4. コテに接続しているエアホース・電源コードには、発熱部を接触させないでください。
5. 感電・ヤケド防止のため、ヒーター交換は必ず電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜き、冷却したのちに行ってください。
6. ノズル交換は、必ず電源スイッチを切り、冷却したのち付属のノズルスパナとノズルボックスを用いて行ってください。

### ⚠注意

1. コテ台およびステーションは、振動のない水平で安定した場所に設置してください。ステーションは横にしたり、逆さにしたり、また衝撃を与えたり、落下させたりしないでください。
2. ヒーターはセラミックでできています。水などで急速に冷却しないでください。また、落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。破損(断線)する恐れがあります。

# 操作パネルについて

操作パネル各部の名称と機能は次の通りです。

## ①ディスプレイ

設定温度表示。各種設定時に文字情報を表示します。

## ②▲▼キー

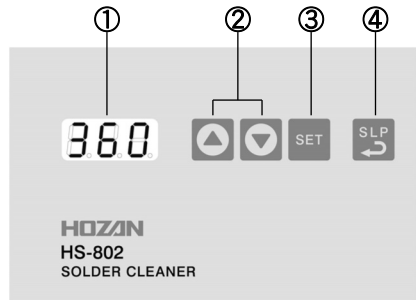
設定温度や諸設定変更時における数字のアップ、ダウン、各種設定時の項目変更などに使用します。

## ③SETキー

温度などの諸設定に使用します。

## ④SLP/↶

スリープモードへの切り替え、各種設定時のキャンセルに使用します。



# 準備

## コテ台の組み立て

1 ベースに、付属の固定ネジでホルダーを固定します。

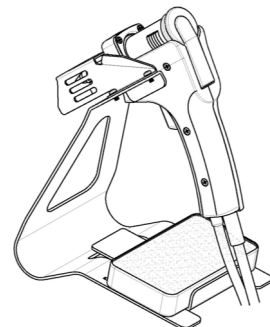
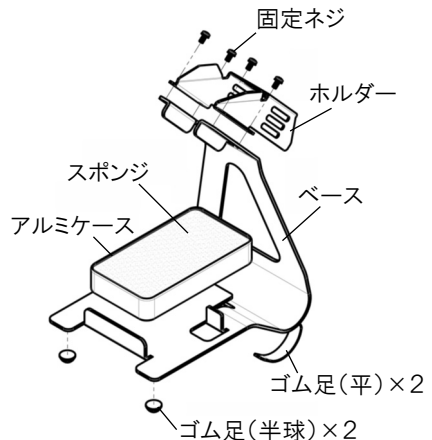
2 右図を参考にゴム足を貼り付けます。

### △注意

必ずゴム足を貼付してご使用ください。またゴム足はできるだけ左右対称になるように貼付ください。不安定になり危険です。

3 スポンジのラッピングを取り除いてください。給水皿に水を注ぎスポンジを湿らせ、ベースに設置します。給水皿は縦・横どちらの向きにでも設置できます。

4 コテ台にコテを置き、不安定でないか確認します。



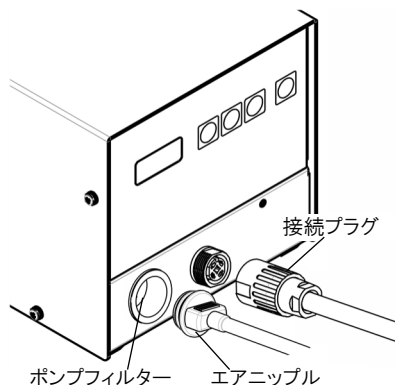
給水皿を横に設置したとき

# 準備

## ステーションの組み立て

- 1 コテ接続レセプタクルに、接続プラグを差し込みます。  
レセプタクルの▲マークとプラグの▲マークの位置を合わせて差し込みます。

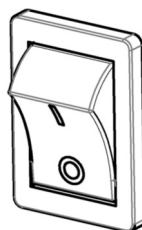
- 2 吸引口の内部にポンプフィルターが入っていることを確認してください。  
エアニップルをステーションの吸引口に差し込みます。



- 3 電源コネクタをステーションのACインレットに差し込みます。  
電源スイッチがOFFであることを確認し、プラグをコンセントに差し込みます。

### 注意

必ず電源プラグのアース端子を確実に接地してご使用ください。



電源がOFFの状態

## ご使用方法


- 1 電源スイッチをONにします。  
“o-n”が点滅し、ポンプが約3秒作動します。  
ポンプの初動によりステーション内蔵のバキュームタンク真空度が高まります。  
“o-n”の点滅後は、現在の設定温度(工場出荷時は360℃)が点滅表示され、その後ブースト通電中を示す、“000”の回転表示へと移行します。  
“000”の回転表示中は、ビットの温度が急上昇していることを示します。  
ブースト通電中は一定間隔で、現設定温度が点滅表示されます。  
ビット先端の温度が安定してきたら設定温度が点灯し、末尾のドットのみが点滅となります。その後、設定温度に近づいたことを確認音で知らせます(消音時は除く)。  
確認音と同時にドットが消灯します。

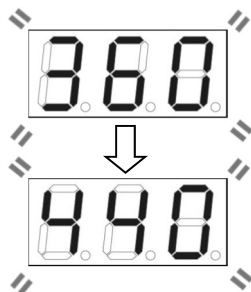


## ご使用方法

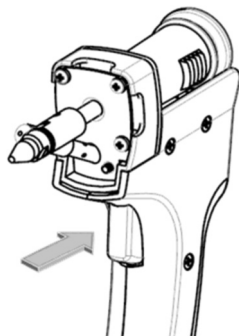
- 2 設定温度を変更します。  
(例)設定温度360℃から440℃に変更する場合

- ① SETキーを押します。  
現設定温度“360”が点滅表示します。
- ② ▲▼キーで希望の温度を表示させます。  
1回押すと1℃ずつ上下し、長押しで早送りになります。
- ③ SETキーを押して完了させます。  
完了させるまでは設定変更が反映されません。

操作中に  キーを押すとキャンセルできます。



- 3 新品のノズル(チップパーツ用ノズルを除く)にはハンダをのせていますので、このハンダを吸引してください。吸引トリガーを引いているあいだ、ポンプが作動して吸引されます。また、トリガーをもどしたあとも約2秒間ポンプが作動します。(次の作業に備え、バキュームタンクの真空度をあらかじめ高めておくための本機独自の機構です。)



- 4 ハンダが吸引されたことを確認し、ノズルの穴にノズル掃除棒を差し込み、詰まりを取り除きます。

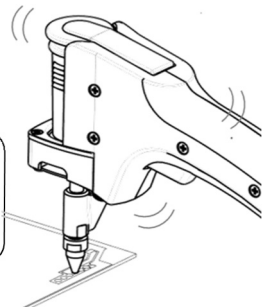
### △ 注意

- ・ノズル掃除棒の直線部分を持って作業を行うと、やけどをする恐れがあり危険です。必ず保持部(螺旋部分)を持って作業してください。
- ・ノズル掃除棒は先端がとがっていますので扱いや保管に気をつけてください。

- 5 ノズルを目標のピン(リード)にあてがい、ハンダが溶けはじめたら軽く左右に揺さぶりながら吸引トリガーを引きます。

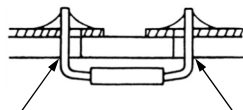
### △ 注意

吸引時は無理に揺さぶったり、こじたりしないでください。コテのヒーター周辺には衝撃を与えないでください。セラミックヒーターが破損する恐れがあります。

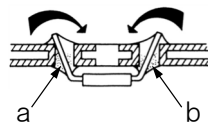


## ハンダ吸い取りのコツ

ピン(リード)と基板パターンとは図のように必ず一部が密着していますので、ハンダが溶解したらノズルを軽く左右に揺さぶりながら吸い取ります。



スルーホール基板の場合は、図のa部、b部のハンダが溶解したことを確認して、ピン(リード)を矢印の方向に起こすようにしてa部、b部のハンダまで吸い取ります。



ハンダが吸い切れなかった場合は無理に吸い取ろうとせず、一度ハンダで埋め戻してから改めて吸い取るほうがうまくいきます。

## 製品のお手入れについて

製品をより長くお使いいただくために、日常のお手入れと定期的なお手入れを実施してください。

### 日常のお手入れ

作業終了ごと、もしくは100～200回の吸引ごとに実施してください。

ノズルやパイプの内部には、金属化合物・フラックス酸化物などのスケールがたまりやすいので頻繁に掃除してください。

また、作業時は360°Cの設定でコテに通電のうえ作業を行ってください。加熱することで作業しやすくなります。

#### ● ノズルの掃除

加熱されたノズルの穴に、付属の「ノズル掃除棒」を数回差し込んでください。吸引トリガーを引き、詰まりが解消されたか確認します。

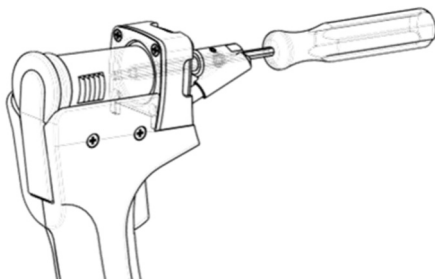
#### △ 注意

- ・ ノズル掃除棒の直線部分を持って作業を行うと、やけどをする恐れがあり危険です。必ず保持部(螺旋部分)を持って作業してください。
- ・ ノズル掃除棒は先端がとがっていますので扱いや保管に気をつけてください。

#### ● パイプ内部の掃除

ノズルを取り外し(後のノズルの交換をお読みください)、加熱されたパイプ内部に、付属の「パイプ掃除棒」を数回差し込んでください。

吸引トリガーを引き、詰まりが解消されたか確認します。



# 製品のお手入れについて

## △注意

- ・ 作業中はヒーターユニット周辺の金属部に触れないように気をつけてください。やけどをする恐れがあり危険です。
- ・ カートリッジは取り付けたまま作業してください。ハンダ屑が飛散して危険です。
- ・ パイプ掃除棒の先端でペーパーフィルターを突き破らないようにご注意ください。

## 定期的なお手入れ

吸引力の著しい低下や、フィルターの汚れが目立ってきたら実施してください。

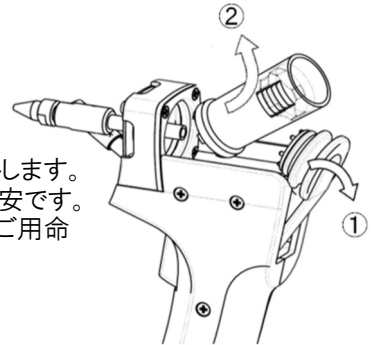
定期的なお手入れにはフィルターなどの交換があります。これらの作業は電源をOFFにし、コテ部が十分に冷えている状態で行ってください。

### ● ペーパーフィルターの交換

カートリッジ内にハンダがたまったら、図のように

- ①カートリッジ押さえを矢印の方向に開き、
- ②カートリッジを取り外し、ペーパーフィルターを取り除きます。

新しいペーパーフィルターを傾かないようにセットします。セット位置はフィルターカートリッジの内側の線が目安です。補修部品は **HS-825 ペーパーフィルター** とご用命ください。

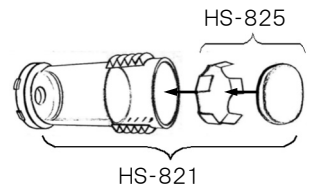


### ● フィルターカートリッジの交換

フィルターカートリッジが激しく汚損したときは交換してください。

取り付け時に市販のシリコングリスを塗布すると、リングとのなじみが良く、シール性も向上し、エア漏れが少なくなります。

補修部品は **HS-821 フィルターカートリッジ**、  
徳用10個入り **HS-820 フィルターカートリッジセット** もあります。



### ● ポンプフィルターの交換

フラックスが付着し黄色く変色してきます。著しく変色したときが交換の目安です。

補修部品は **HS-822 ポンプフィルター** とご用命ください。



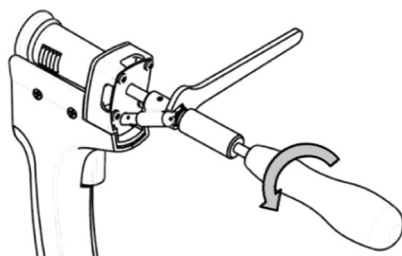
# 製品のお手入れについて

## その他 消耗品の交換

次の消耗品の劣化も吸引力に影響を及ぼします。定期交換を実施してください。

### ● ノズルの交換

先端面や吸引穴が磨耗してきた場合は吸引力が弱まります。その場合は、新しいノズルと交換してください。  
ヒーターユニットの平行面を付属の「ノズルスパナ」で保持し、「ノズルボックス」でノズルを回してください。

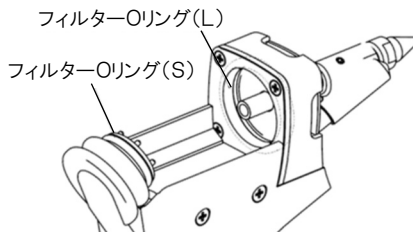


#### △注意

加熱を繰り返すうちに、ノズルは固着する場合があります。ノズルの取り外し作業は必ずノズルスパナをご使用ください。無理に力を加えると、ヒーターユニットが破損する恐れがあります。

### ● フィルターリングの交換

劣化するとシール性が低下しますので交換してください。ピンセットなどを使用しリングを取り外し、新しいリングを手作業(工具など使用せず)でセットしてください。  
補修部品は「HS-826 フィルターリングセット」とご用命ください(LとS各1個入)。



#### △注意

- ・ 取り付けの際は、ピンセットのようなリングに傷を付けるような工具は使用しないでください。
- ・ 取り外しの際に破損している可能性があるため、一度取り外したリングは再使用しないでください。



# ヒーターユニットの交換

ヒーターの溶断や破損が発生した場合は、ヒーターユニットを交換します。ヒーターの端子間の抵抗値は正常な状態で  $14.5\Omega \pm 10\%$  ( $23^\circ\text{C}$ ) です。この範囲外の場合はヒーターユニットを交換してください。本機はヒーターのみの交換はできません。ヒーターユニットの交換となります。

補修部品は **HS-810 ヒーターユニット** とご用命ください。

## ● ヒーターユニットの交換手順

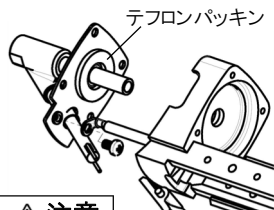
- 1 電源スイッチを切り、接続プラグを外します。  
ヒーターに余熱があるときは、常温になってから作業してください。

- 2 ネジが4本見える側のハンドルカバーを開きます。4本のネジを外すと、開くことができます。反対側の2本のネジは緩めないでください。

- 3 ヒーターからヒーターソケットを引き抜きます。このとき、必ずヒーターソケットをつかんで作業してください。電線を引っ張ると断線の恐れがあります。

- 4 図の位置のネジを4本緩め、ヒーターユニットを取り外します。

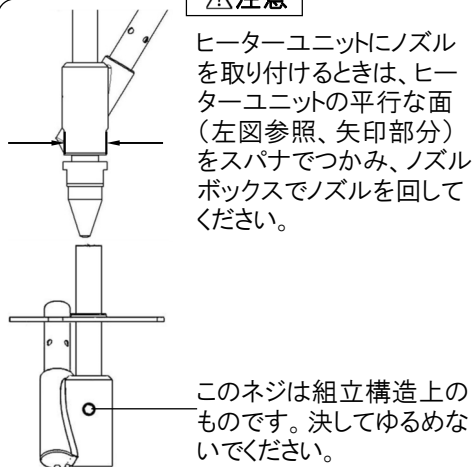
- 5 アース端子をヒーターユニットから取り外します。  
新しいヒーターユニットにアース端子を取り付け、逆の手順で組み立ててください。



### ⚠ 注意

- ・テフロンパッキンの取り付けを忘れないようにご注意ください。  
テフロンパッキンの再利用はできません。新しいテフロンパッキンをご使用ください。
- ・テフロンパッキンはなるべくパイプにセンターを合わせて取り付けてください。

### ⚠ 注意



# ヒーター交換時の補正方法

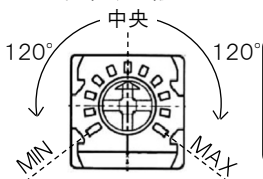
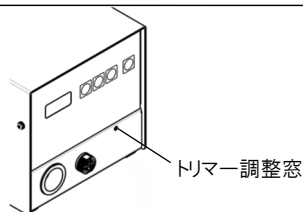
HS-802は出荷時に、ヒーターそれぞれが持つ固有の抵抗値に従って温度制御回路の調整をしております。ヒーターを交換した場合、温度制御回路の補正が必要になります。補正は次の手順で行ってください。

## △注意

補正をおこなわないままご使用になると、異常に温度が上昇する場合があります、大変危険です。補正は必ず実施してください。

- 1 500℃まで測定できるハンダゴテ温度計と、マイナスドライバー(刃幅2mm以下)をご用意ください。

電源がOFFになっていることを確認し、操作パネル右下のトリマー調整窓からドライバーを使用し、トリマーを可動範囲の中央付近(MINから120°回転させた位置)に設定しておきます。



## △注意

トリマーのMAX付近では瞬時に高温に達するため、セラミックヒーターが熔断する恐れがあります。必ず中央付近に仮設定してください。

- 2 SETキーを押しながら、電源スイッチをONにします。確認音(消音時は除く。以降同様)とともに“SEt”が表示され、温度補正モードが起動します。



- 3 “360”が表示されたら、ノズル先端の温度が安定するまで約2分待ちます。ハンダゴテ温度計でノズル先端の温度を測定しながら、トリマーをゆっくりまわし温度計の表示が360℃になるように設定します。



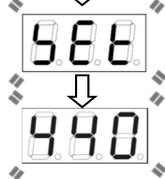
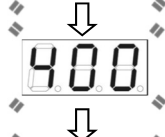
トリマーだけでは合わせにくい場合は、▲▼キーで希望温度に近づけます。▲で温度は上昇し、▼で温度は下降します。上下ともに『20』の補正範囲を設けています。

▲▼キーでの温度補正は、本機ディスプレイの数字ひとつの変化で1℃変化するとは限りません。

補正が完了したらSETキーを押します。確認音とともに“SEt”⇒“400”と点滅表示されます。以降、補正中はトリマーを触らないでください。

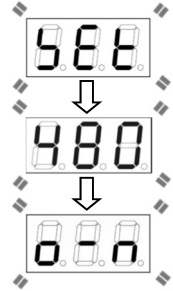


- 4 “400”が表示されたら、ハンダゴテ温度計でノズル先端の温度が400℃になるように▲▼キーで調整します。補正が完了したらSETキーを押します。確認音とともに“SEt”⇒“440”と点滅表示されます。



## ヒーター交換時の補正方法

5 同様に440°Cの補正を行い、完了したらSETキーを押します。次の480°Cも同じく補正し、SETキーを押します。

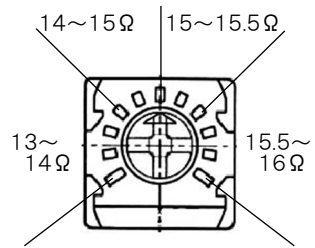


6 温度補正が完了し、確認音とともに“o-n”が表示され、設定温度360°Cで通常起動します。

この操作により、変更された設定温度(5ページ)は工場出荷時の360°Cに戻ります。必要に応じ再設定してご使用ください。

### 温度測定ができない(温度測定手段がない)場合

ノズル先端の温度測定ができない場合は、ヒーター端子間の抵抗値を測定のうえ、右図の位置にトリマーを調整してください。この場合の設定温度は、あくまでも目安程度となってしまいますが、トリマーを調整せずに使用すると高温になりすぎるなど、非常に危険ですので必ず調整してください。



#### △注意

ヒーター端子間の抵抗値の測定は、必ず室温23°Cで行ってください。室温の違いが抵抗値に大きく影響します。

上述のとおり、あくまでも目安程度の温度設定ですので、厳しい温度管理を必要とされる作業には適さないばかりか、場合によっては周辺電子部品を損傷する恐れもあります。できるだけ早い内に、改めて正確に再補正することをおすすめします。

#### 別売 H-769 ハンダゴテ温度計

- ハンダゴテ温度計として3つの機能を搭載
- ①計測結果をSDカードに保存する記録機能
  - ②計測結果からOK/NGを表示する合否判定機能
  - ③ICタグを使ってハンダゴテを管理するハンダゴテ識別機能



温度補正モード時に60分以上キー操作をしなかった場合は、オートパワーオフの設定に関係なく、安全のため電源が切れ“OFF”の点滅表示となります。一度電源スイッチをOFFにし、再度温度補正を再開してください。


## スリープ機能について

本機には、ノズルの空焼きによる酸化の軽減と安全対策として、ノズルの温度を低く待機状態(ノズル先端温度を約200℃)にする機能が搭載されています。このスリープ機能は、『オートパワーオフ』機能と併用ができます。

スリープ機能には下記の2種があります。

### ● マニュアルスリープ

作業を一時的に中断する場合に、即座に手動で待機状態にすることができます。

操作パネルの  を押すと“SLP”と点滅表示され待機状態となります。

吸引トリガーを操作することで、確認音が鳴り(消音時は除く)、スリープモード突入前の設定温度が表示され復帰します。

### ● オートスリープ

あらかじめ設定した時間内に吸引トリガーの操作がなかった場合に、自動的に待機状態となります。オートスリープが設定されている場合も、マニュアルスリープは機能しません。

【例】オートスリープが機能するまでの時間を30分に設定します。

SET

- ① SETキーを長押しします。  
“———”が点滅表示します。  
※ 電源投入後、初回のメニュー選択時は“———”表示になりますが、2回目以降は前回終了時点のメニューが表示されます。




- ② ▲▼キーで“SPS”を表示させ、SETキーを押します。“oFF”が点滅表示されます。  
※ 工場出荷時の設定は“oFF”です。



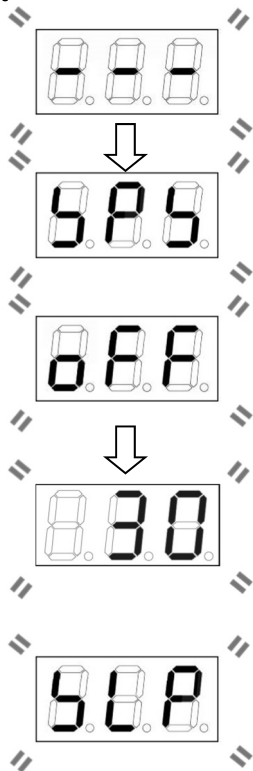
- ③ ▲▼キーで“30”を表示させます。  
1回押すと1分ずつ上下し、長押しで早送りになります。

SET

- ④ SETキーを押して完了します。

設定の途中で  キーを押すことでキャンセルできます。

以上で無操作状態が30分続くとオートスリープが機能します。オートスリープが機能すると“SLP”が点滅表示します。吸引トリガーの操作で確認音が鳴り(消音時は除く)、設定温度に復帰します。また、SLPキー以外の操作キーでも復帰しますが、その場合は確認音が鳴りません。



## オートパワーオフ機能について

オートパワーオフ機能は、あらかじめ設定した時間内に吸引トリガーの操作を行わなかったとき自動的に電源をOFFにする機能です。電源の切り忘れを防止できます。安全対策として、設定されることをお勧めします。

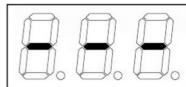
【例】オートパワーオフが機能するまでの時間を60分に設定します。

SET

① SETキーを長押しします。

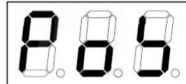
“— — —”が点滅表示します。

※ 電源投入後、初回のメニュー選択時は“— — —”表示になりますが、2回目以降は前回終了時点のメニューが表示されます。



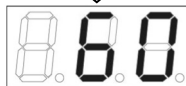
② ▲▼キーで“PoS”を表示させ、SETキーを押します。“99”が点滅表示されます。

※ 工場出荷時の設定は99です。



③ ▲▼キーで“60”を表示させます。

1回押すと1分ずつ上下し、長押しで早送りになります。



SET

④ SETキーを押して完了します。

設定の途中で



キーを押すことでキャンセルできます。

以上で無操作状態が60分続くとオートパワーオフが機能します。パワーオフ状態になると“oFF”が点滅表示します。復帰するには一度電源スイッチをOFFにし、再度電源を入れてください。



### ● オートスリープとオートパワーオフの併用について

オートスリープとオートパワーオフは併用が可能ですが、オートパワーオフの設定時間のほうが短い場合はオートパワーオフが優先して起動します。

【例】オートスリープ30分、オートパワーオフ99分の設定の場合

…無操作時間が30分経過したらスリープ、その後69分後に電源OFFとなります。

【例】オートスリープ90分、オートパワーオフ60分の設定の場合

…無操作時間が60分経過したら電源OFFとなります。スリープは機能しません。

【例】オートスリープ60分、オートパワーオフ60分の設定の場合

…無操作時間が60分経過したら電源OFFとなります。スリープは機能しません。

# 通知音の設定について

通知音にはキー操作音と確認/警告音の2種類があります。

## ● キー操作音の設定

操作パネルのキーを押したときの通知音をON/OFF選定できます。

### 【例】キー操作音を消します。



- ① SETキーを長押しします。  
“— — —”が点滅表示されます。  
※ 電源投入後、初回のメニュー選択時は  
“— — —”表示になりますが、2回目以降は  
前回終了時点のメニューが表示されます。



- ② ▲▼キーで“bEP”を表示させ、SETキーを押します。“o-n”が点滅表示されます。  
※ 工場出荷時の設定はo-nです。



- ③ ▲▼キーで“oFF”を表示させます。

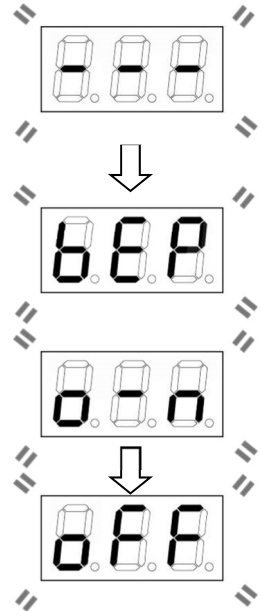


- ④ SETキーを押して完了します。

設定の途中で



キーを押すことでキャンセル  
できます。



# 通知音の設定について

## ● 確認/警告音の設定

不具合が生じた場合の警告音や各種メニューの操作確認音をON/OFF選定できます。ヒーターの温度制御に異常がある場合(“E-2”が表示されます)は、確認/警告音をOFFに設定していても、警告音が鳴ります。

### 【例】確認/警告音を消します。



- ① SETキーを長押しします。  
“———”が点滅表示されます。  
※ 電源投入後、初回のメニュー選択時は  
“———”表示になりますが、2回目以降は  
前回終了時点のメニューが表示されます。



- ② ▲▼キーで“buZ”を表示させ、SETキーを押します。“o-n”が点滅表示されます。  
※ 工場出荷時の設定はo-nです。



- ③ ▲▼キーで“oFF”を表示させます。

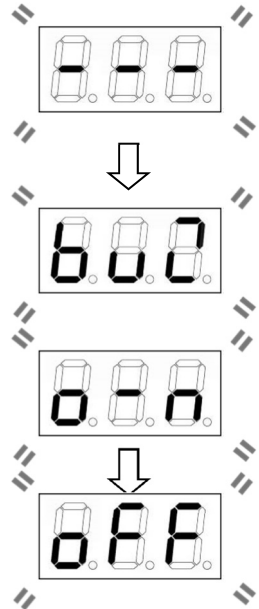


- ④ SETキーを押して完了します。

設定の途中で



キーを押すことでキャンセル  
できます。



確認/警告音には以下のものがあります。

#### 【確認音】

- ・ 設定温度到達通知
- ・ 補正開始時
- ・ 暗証番号設定時
- ・ 設定初期化の実行時
- ・ スリープ状態からの復帰時

#### 【警告音】

- ・ 暗証ロック中に温度補正を開始した場合の警告
- ・ エラー通知

## 暗証ロックについて

あらかじめ設定しておいた暗証番号でロックすることにより、諸設定を管理者以外が変更できないようにする機能です。ロック中は暗証番号で解除しない限り、設定値を変更できない項目があります。

ロック中の操作制限については、P22の『各種メニューと操作項目の設定範囲一覧』をご覧ください。

### ● 暗証ロックの掛け方と解除方法

工場出荷時の暗証番号は『255』となっています。

#### 【例】暗証番号『255』でロックを掛けます。

SET

① SETキーを長押しします。

“— — —”が点滅表示します。

※ 電源投入後、初回のメニュー選択時は“— — —”表示になりますが、2回目以降は前回終了時点のメニューが表示されます。



② ▲▼キーで“Lok”を表示させ、SETキーを押します。

現在の状態を示す“uLk”が点滅表示されます。

※ 工場出荷時の設定はuLkです。



③ SETキーを押すと“000”が点滅表示します。



④ ▲▼キーで“255”を表示させます。

1回押すと1ずつ上下し、長押しで早送りになります。



SET

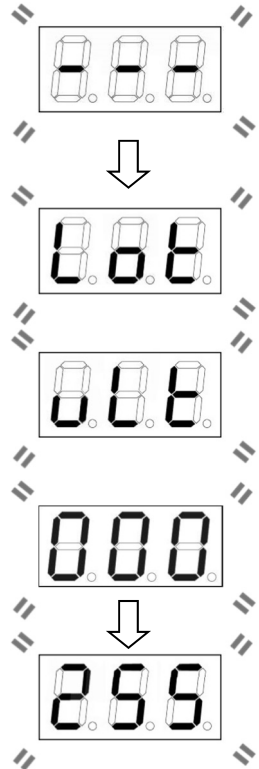
⑤ SETキーを押して完了します。

これで一部の操作に制限が掛かります。制限について詳しくはP22をご覧ください。

設定の途中で



キーを押すことでキャンセルできます。





## 暗証ロックについて

【例】暗証番号『255』でロックを解除します。

SET

- ① SETキーを長押しします。  
“———”が点滅表示します。  
※ 電源投入後、初回のメニュー選択時は  
“———”表示になりますが、2回目以降は  
前回終了時点のメニューが表示されます。



- ② ▲▼キーで“Lok”を表示させ、SETキーを押します。  
現在の状態を示す“Lk”が点滅表示されます。


- ③ SETキーを押すと“000”が点滅表示します。

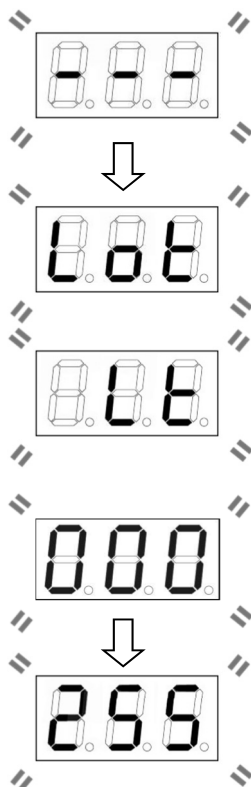


- ④ ▲▼キーで“255”を表示させます。  
1回押すと1ずつ上下し、長押しで早送りになります。

SET

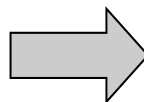
- ⑤ SETキーを押して完了します。  
これで暗証ロックが解除されます。

設定の途中で  キーを押すことでキャンセル  
できます。

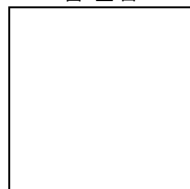


P19が切り離されている場合は、暗証番号の変更方法の部分を管理者が保管しています。

設定温度など、各種設定を変更したいときは管理者に相談ください。



管理者



## 暗証ロックについて

暗証番号は任意の番号に変更することができます。

暗証ロック中に暗証番号を変更すると、暗証ロックが解除されます。

この操作を実施することで、誰もが暗証ロックを解除することができますので、固定管理が必要な場合はこのページを切り離して別途保管することをお勧めします。

また、暗証番号を忘れてしまった場合も、この操作を行うことで暗証番号の再設定と暗証ロックの解除が同時に行えます。

### 【例】暗証番号を『123』に変更する。

- ① 電源がOFFになっていることを確認する。



SLP

- ② ▲キーと SLP / ↶ キーを同時に押しなが  
ら電源スイッチをONにします。

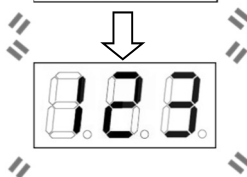
- ③ ピーッという確認音が鳴り“CLR”が点滅表示し  
ます。



- ④ SETキーを押すと“ 0”が点滅表示します。



- ⑤ ▲▼キーで“123”を表示させます。  
1回押すと1ずつ上下し、長押しで早送り  
になります。



- ⑥ SETキーを押すと暗証番号の変更が確定し、  
通常起動します。  
同時に暗証ロックが解除されているので、必要に  
応じて再ロックをしてください。

暗証番号の設定中に電源をOFFするなど中断  
してしまった場合は暗証番号の変更も解除も実行  
されません。



## 設定値の初期化について

初期化を行うことで、各種設定値を工場出荷時の状態に戻すことができます。  
この操作は暗証ロック中は実施できませんので、ロックを解除してから行ってください。  
工場出荷時の設定値については、P22の『各種メニューと操作項目の設定範囲一覧』をご覧ください。

### ● 初期化の方法

SET

- ① SETキーを長押しします。  
“----”が点滅表示します。  
※ 電源投入後、初回のメニュー選択時は  
“----”表示になりますが、2回目以降は  
前回終了時点のメニューが表示されます。



- ② ▲▼キーで“dEF”を表示させ、SETキーを押します。“no”が点滅表示されます。



- ③ ▲▼キーで“YES”を表示させます。



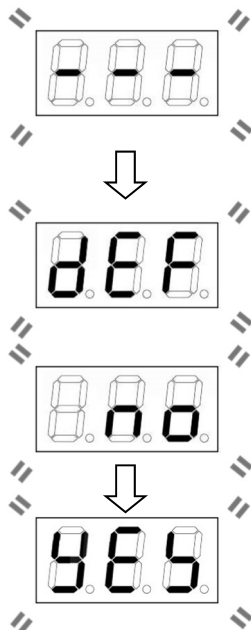
SET

- ④ SETキーを押すと設定値の初期化が実行され、工場出荷時の設定温度360°Cで通常起動します。  
設定値だけでなく、確認/警告音のOFF選択などもリセットされます。

設定の途中で



キーを押すことでキャンセル  
できます。



## 各種メニューと操作項目の設定範囲一覧

メニュー項目	表示	設定範囲	単位	工場出荷時	暗証ロック中の操作
キー操作音		on/oFF	—	on	○
オートスリープ		oFF/1～99	分	oFF	×
オートパワーオフ		oFF/1～180	分	99	×
暗証ロック		000～255	—	255 ※	○
確認/警告音		on/oFF	—	on	×
初期化		YES/no	—	— ※※	×

※ メニューを選定した直後の表示は 000

※※ メニューを選定した直後の表示は no

操作項目	表示	設定範囲	単位	工場出荷時	暗証ロック中の操作
設定温度		360～480	℃	360	×
マニュアルスリープ		—	—	—	○
暗証番号変更		000～255	—	255	○
温度補正		±20	℃	±0	×

## エラー通知について

ヒーターに関する異常が起きた場合、警告音(※)とともに、ディスプレイにエラーNo.が点滅表示されます。

直ちに電源をOFFにし、各エラーに応じた対処を実施してください。

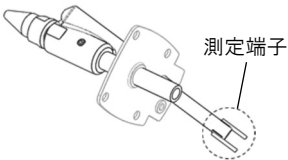
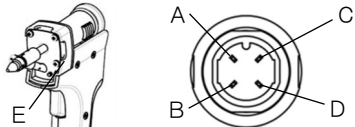
原因がわからない場合は修理をご依頼ください。

※警告音の設定については15ページの『通知音の設定について』を参照ください。

## エラー通知について

### ● “E-1”が表示された場合

ヒーターの接続に関する異常です。下表を参考に対処してください。  
その後、電源をONにすることで、問題がなければ通常通りご使用いただけます。

原因	対処
コテが正しく接続されていない	4ページ『ステーションの組み立て』を参照して、コテの接続プラグをステーションのコテ接続レセプタクルに正しく接続してください。
ヒーターが正しく接続されていない	9ページの『ヒーターユニットの交換』を参照して、ヒーターを正しく接続してください。
ヒーター切れ	<p>ヒーターの端子間抵抗値を測定し、下記の正常値の範囲内にならない場合は、新品のヒーターに交換してください。</p> <p>【ヒーター正常抵抗値】 14.5Ω ± 10% (23℃)</p> 
その他コテ部の配線不良	<p>接続プラグの各端子間の状態が下表のとおりであるか確認し、異常がある場合は正しく配線し直してください。</p> <p>※ヒーターを取り付けた状態で確認してください</p> 
	<p>① B-C間 抵抗値チェック ヒーターの正常抵抗値と同じ値が表示されます。</p>
	<p>② A-C間 吸引トリガーを引いたときに導通が確保できていること。</p>
	<p>③ D-E間 導通が確保できていること。</p>

## その他のトラブルと対策

機器を不調のまま放置して使い続けると重大な故障に至ることがあります。一方、日常のお手入れや、定期的なお手入れ、消耗部品の劣化が原因の場合は、清掃や部品交換で解決する場合があります。

以下のチェック項目を確認のうえ、適切な処置を施してください。症状が改善されない場合は、修理を依頼してください。

### ● 電源に関するトラブル

症状	チェックする箇所
電源が入らない (表示器になにも表示されない)	電源コードは確実に接続されていますか。
	電源コードに損傷はありませんか。
	ヒューズは切れていませんか(ヒューズBOX内 250V/3A)

## その他のトラブルと対策

### ● 吸引力に関するトラブル

**修** = 修理を依頼ください。

症状	チェックする箇所
吸引力が極端に低下している	カートリッジ内部に吸引したハンダが溜まっていませんか。またペーパーフィルターが汚れていませんか。カートリッジのメンテナンスを実施してください。(P7)
	ノズルの穴が目詰まりしていませんか。ノズルの掃除をしてください。(P6)
	パイプが詰まっていませんか。パイプ内部の掃除をしてください。(P6)
	ポンプフィルターが汚れていませんか。交換してください。(P7)
	フィルターOリングやテフロンパッキンの劣化が考えられます。交換してください。(P8)
	吸引経路のエアー漏れ、ダイヤフラムの損傷が考えられます。 <b>修</b>

### ● ポンプに関するトラブル

症状	チェックする箇所
電源投入直後のポンプ作動音がしない	ポンプの故障か、ポンプへの電源供給への異常が考えられます。 <b>修</b>
吸引トリガーを操作してもポンプが動かない	内蔵スイッチの破損や接触不良が考えられます。 <b>修</b>
ポンプから異音がする	ダイヤフラムなどポンプ部品の損耗が考えられます。 <b>修</b>

### ● ヒーターに関するトラブル

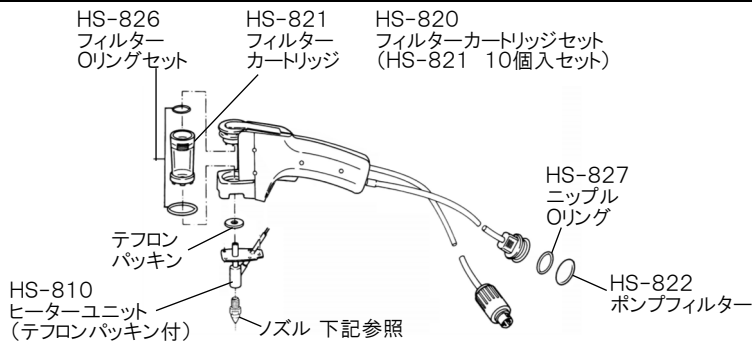
症状	チェックする箇所
エラーNo.『E・O』が表示された	ヒーターの接続および温度制御の異常を表す通知です。P23の『エラー通知について』を参照に対処してください。
ノズルの温度が低い 温度が上がらない	スリープ状態になっていませんか。『SLP』点滅表示吸引トリガーを操作すると復帰します。
	オートパワーオフが機能していませんか。『OFF』点滅表示電源スイッチを一旦OFFにし、再度ONしてください。
ノズルの温度が高すぎる ハンドルが異常に熱くなる	ヒーター交換時の温度補正を正しくしていますか。再度補正してください。(P10~11)

### ● その他

症状	チェックする箇所
各設定が変更できない	暗証ロック中の可能性があります。管理者に確認ください。
ノズル、ヒーターユニットが赤熱する	温度制御の異常が考えられますので、使用をおやめください。 <b>修</b>
ディスプレイの『000』回転表示が止まらない	

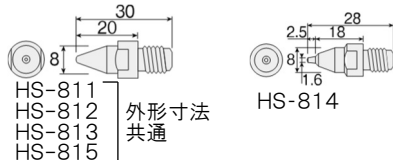


## 交換部品



本機に標準装備のノズルは口径1.0mmのHS-812です。これ以外に以下のものを用意しています。とくに、チップパーツ用ノズルは特殊形状により、チップパーツをまるごと吸引でき、大変便利です。目的に合わせてお選びください。

品番	ノズル口径 mmφ
HS-811	0.8
HS-812	1
HS-813	1.6
HS-814	0.75
HS-815	1.3



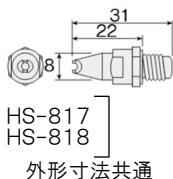
■ 入数:1個

※ ノズル先端保護のため、出荷時に鉛フリーハンダを盛っています。

### チップパーツ用ノズル

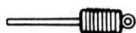
品番	適応チップ mm
HS-817	1.6×0.8
HS-818	3.2×1.6

■ 入数:1個

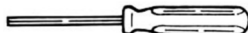


## 別売部品

### HS-802-21 ノズル掃除棒



### HS-802-18 パイプ掃除棒



### HS-830 メンテナンスキット

よく使う補修部品や工具類をパーツケースにセットしたメンテナンスキットを用意しています。ご利用ください。



### HS-830 セット内容13点

テフロンパッキン	HS-802-14
ノズル掃除棒	HS-802-21
パイプ掃除棒	HS-802-18
ヒーターユニット	HS-810
ノズル(1.0mmφ)	HS-812
フィルターカートリッジ(×10)	HS-821
ポンプフィルター(×5)	HS-822
フィルターOリングセット(×2)	HS-826
ニップルOリング(×2)	HS-827
ノズルボックス	
ノズルスパナ	
作業手袋	
パーツケース	B-50-EF

部品はホーザンの通信販売でもお求めいただけます。





技術的なお問い合わせ

ホーザン テクニカルホットライン

☎ **06-6567-3132** E-mail: [th@hozan.co.jp](mailto:th@hozan.co.jp)

【月曜日から金曜日（祝日を除く）の10:30～12:00・13:00～17:00】

補修部品については、Web上のパーツリストをご覧ください。  
通信販売もご利用いただけます。

[ホーザン](#) [通信販売](#) [検索](#)

## ホーザン株式会社

本社 〒556-0021 大阪市浪速区幸町1-2-12  
TEL(06)6567-3111 FAX(06)6562-0024